1　3S－FE エンジン

変更概要 …… 1－2
イグニッション …… 1－2
準備品 …… 1－2
単体点検 …… 1－2
レジスティブコード …… 1－2
スパークプラグ …… 1－2
イグニッションコイル …… 1－3
ディストリビューター …… 1－4
イグナイター …… 1－4

無断複製禁止

T0017400

変更概要

3S−FEエンジンの改良によりトヨタ　セリカ修理書／追補版（品番62346，1991年8月発行）の内容から次の項目を変更しました。

1　イグニッション

・イグニッションコイル，ピックアップコイルの基準値の変更

T0017401

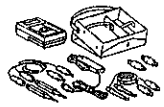
イグニッション

注意　・エンジン回転中は，バッテリーターミナルをはずさない。

・有害なパルスが発生するような行為はしない。

準　備　品

計　器

	09082-00012	トヨタエレクトリカルテスター	各部点検用
オシロスコープ			エンジンコントロールコンピューター点検用

T0017402

単体点検

レジスティブコード

1　抵抗点検

(1)　トヨタエレクトリカルテスターを使用して，レジスティブコードの抵抗を測定する。

限　度　25kΩ／本

スパークプラグ

1　スパークプラグ取りはずし

2　スパークプラグ清掃，点検

3　スパークプラグギャップ点検，調整

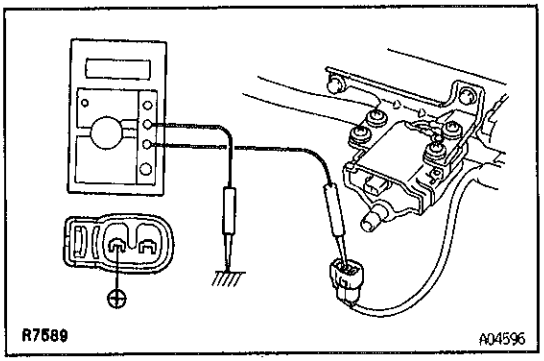
4　スパークプラグ取り付け

T＝180kg·cm

無断複製禁止

イグニッションコイル

注意 文中の冷間時*，温間時*とは，イグニッションコイル本体の温度を表す。
また，温度設定範囲を冷間時（−10〜50℃），温間時（50〜100℃）とする。



1 入力電圧点検

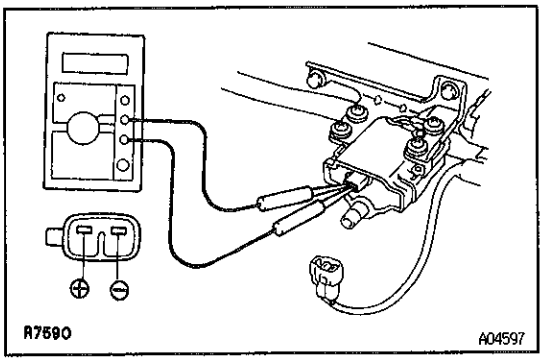
(1) イグニッションコイルのコネクターを取りはずす。

(2) イグニッションスイッチを ON にする。

(3) トヨタエレクトリカルテスターを使用して，ハーネス側コネクターの⊕側端子↔ボデーアース間の電圧を測定する。

基準値 10〜14V

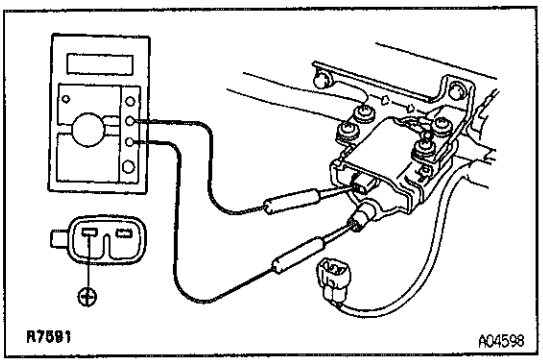
(4) イグニッションスイッチを OFF にする。



2 一次コイル抵抗点検

(1) トヨタエレクトリカルテスターを使用して，イグニッションコイルの⊕端子↔⊖端子間の抵抗を測定する。

基準値 0.36〜0.55Ω（冷間時*）
0.45〜0.65Ω（温間時*）



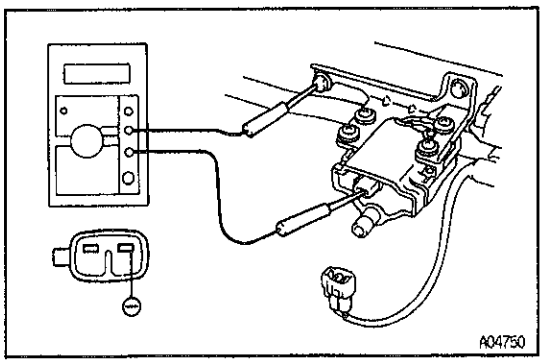
3 二次コイル抵抗点検

(1) レジスティブコードを切り離す。

(2) トヨタエレクトリカルテスターを使用して，イグニッションコイルの⊕端子↔高圧端子間の抵抗を測定する。

基準値 9.0〜15.4 kΩ（冷間時*）
11.4〜18.1 kΩ（温間時*）

(3) レジスティブコードを接続する。



4 絶縁抵抗点検

(1) トヨタエレクトリカルテスターを使用して，イグニッションコイルの⊖端子↔ボデーアース間の抵抗を測定する。

基準値 10MΩ以上

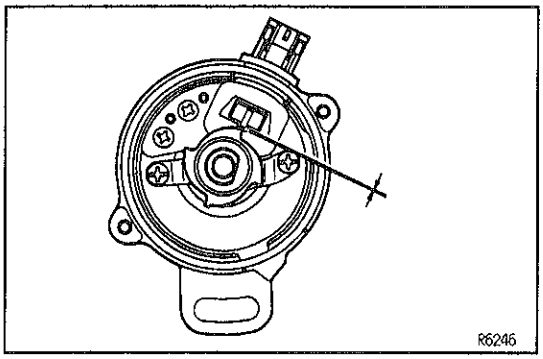
(2) イグニッションコイルのコネクターを接続する。

無断複製禁止

1

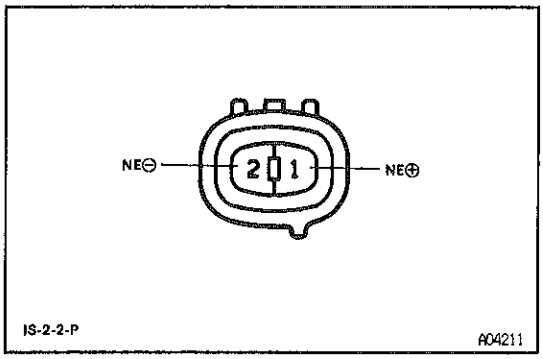
ディストリビューター

注意 文中の冷間時＊，温間時＊とは，ピックアップコイル本体の温度を表す。
また，温度設定範囲を冷間時（－10～50℃），温間時（50～100℃）とする。



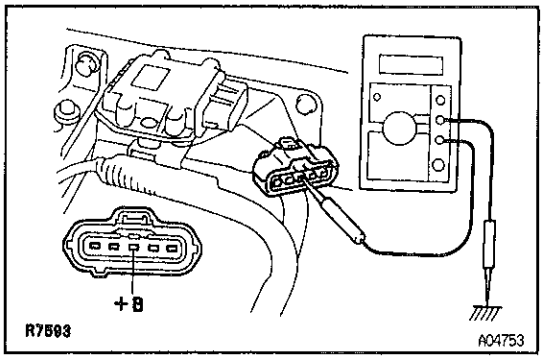
1 エアギャップ点検

(1) ディストリビューターキャップおよびローターを取りはずす。
(2) ダストプルーフカバーを取りはずす。
(3) シックネスゲージを使用してエアギャップを測定する。
基準値 0.2～0.5mm
基準値外の場合は，ディストリビューターハウジングを交換する。



2 ピックアップコイル点検

(1) ディストリビューターのコネクターを切り離す。
(2) トヨタエレクトリカルテスターを使用して，NE⊕端子↔NE⊖端子間の抵抗を測定する。
基準値 135～220Ω（冷間時＊）
175～255Ω（温間時＊）
基準値外の場合は，ディストリビューターハウジングを交換する。



イグナイター

1 入力電圧点検

(1) イグナイターのコネクターを切り離す。
(2) イグニッションスイッチをONにする。
(3) ワイヤハーネス側の＋B端子↔ボデーアース間の電圧を測定する。
基準値 10～14V
(4) イグナイターのコネクターを接続する。

2 イグナイター点検

注意 イグナイターはIC部品を多数内蔵しており，イグナイター単体による点検は困難なため，次のフローチャートに従い点検した結果，良否を判断する。

〈参考〉 フローチャートの見方

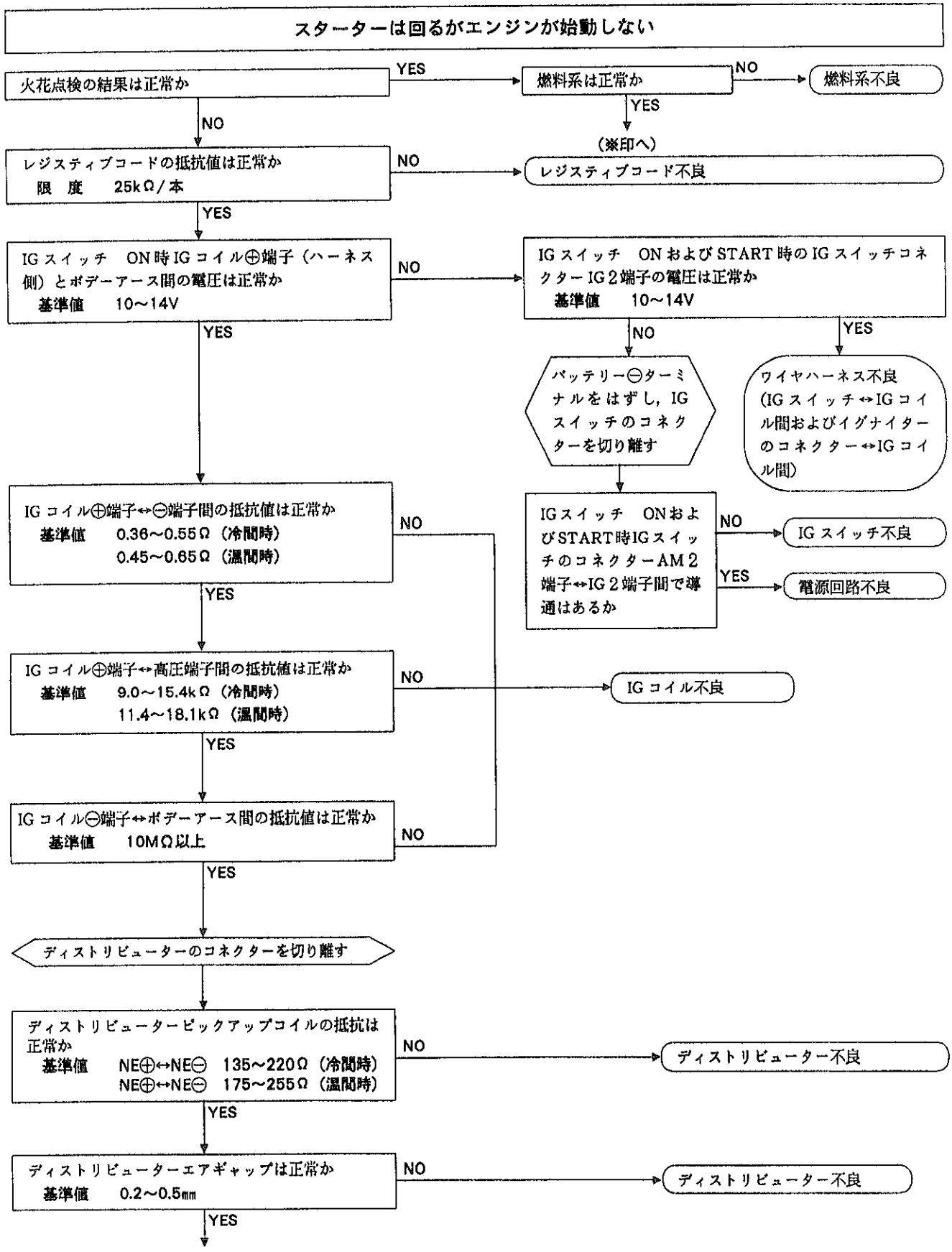
……作業する項目

……点検する項目

……不具合要因

＊ワイヤハーネス系も含む。

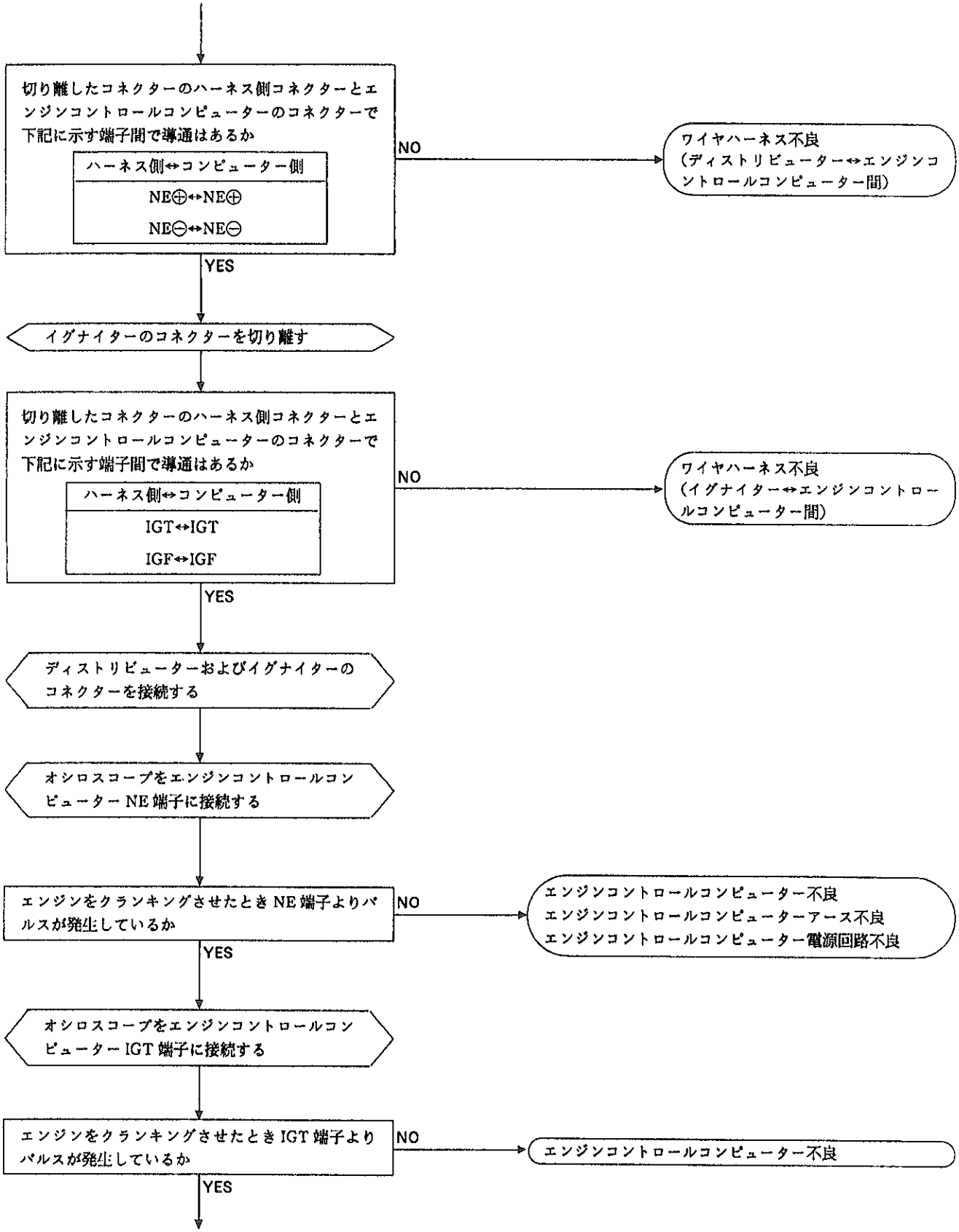
無断複製禁止



JA3824

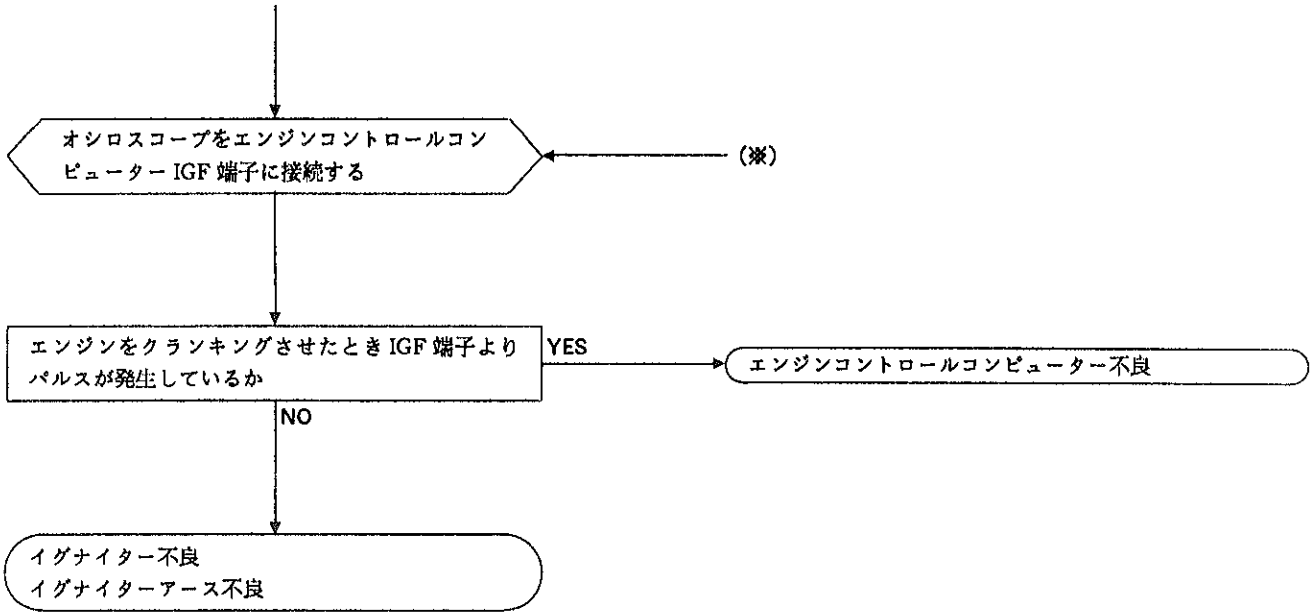
無断複製禁止

1

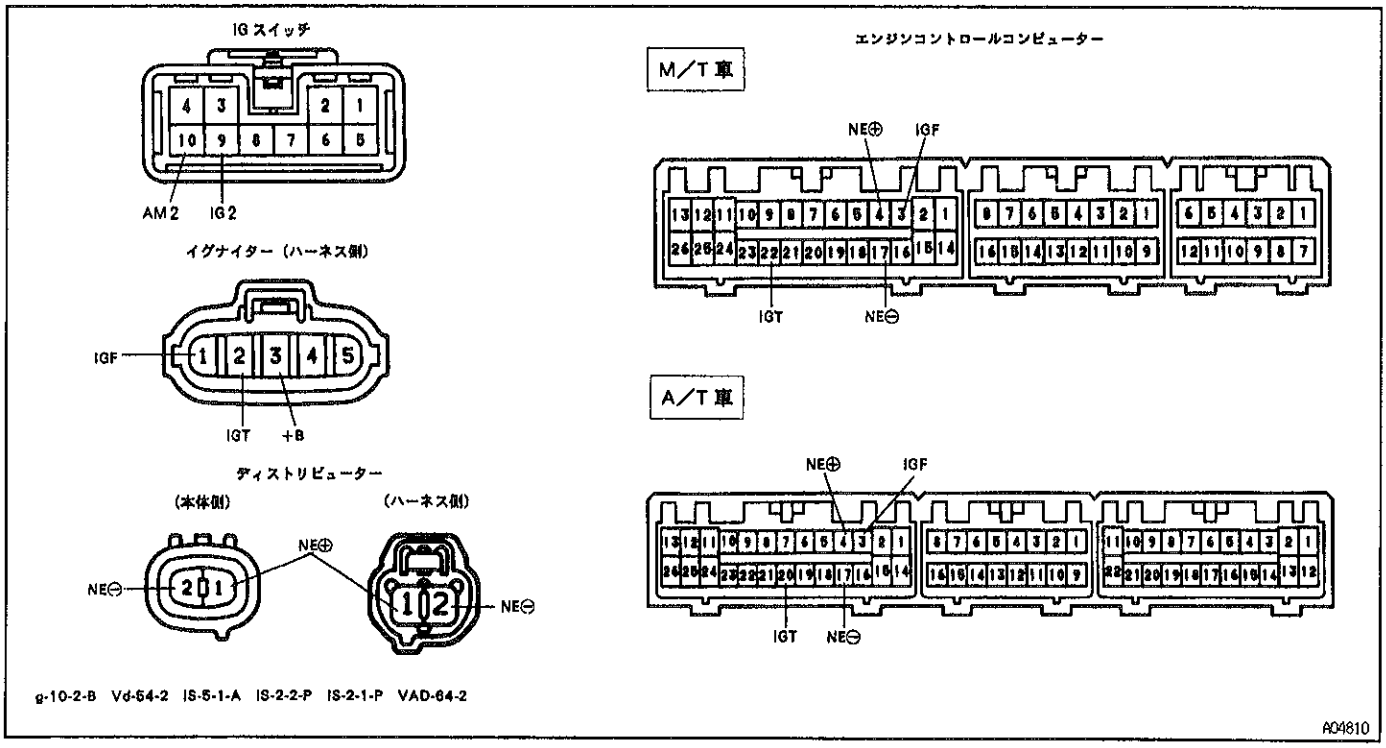


JA3219

無断複製禁止



JA3220



無断複製禁止

MEMO

無断複製禁止